

みんななかいます!

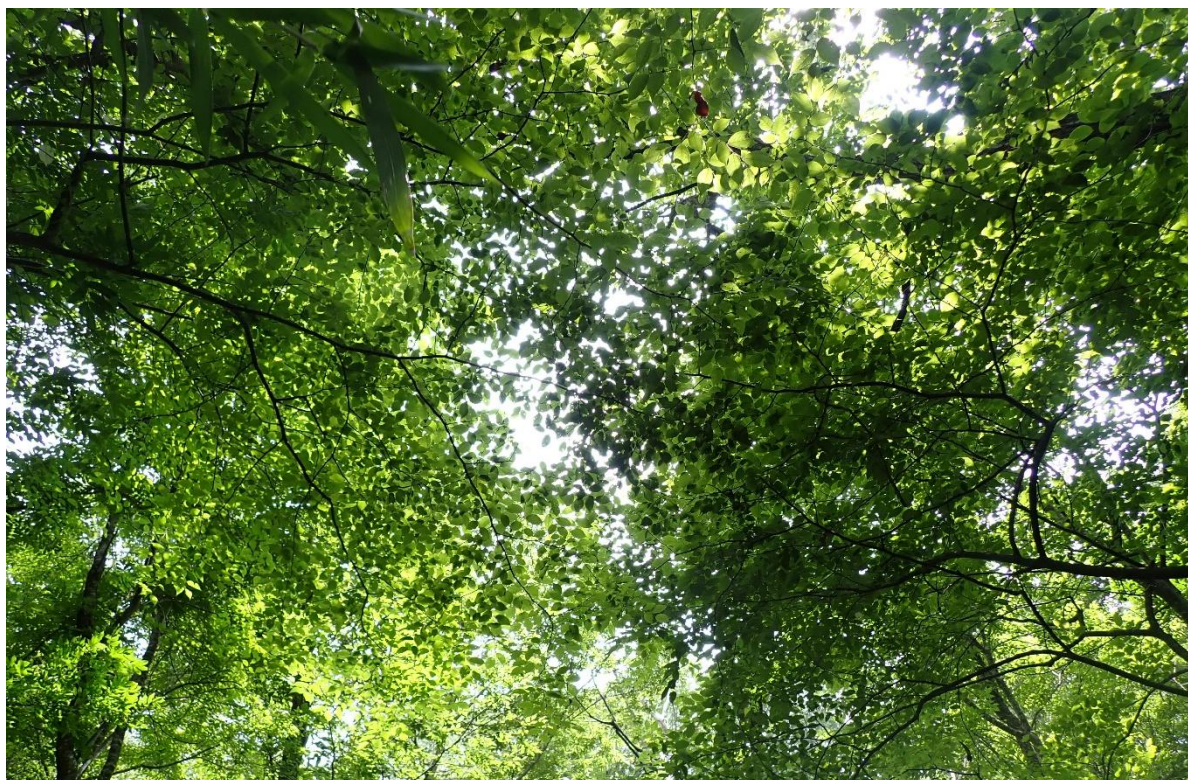
号外

2026年7月21日(火)～22日(水)

後川子どもキャンプ

7月21日(火)









7月22(水)

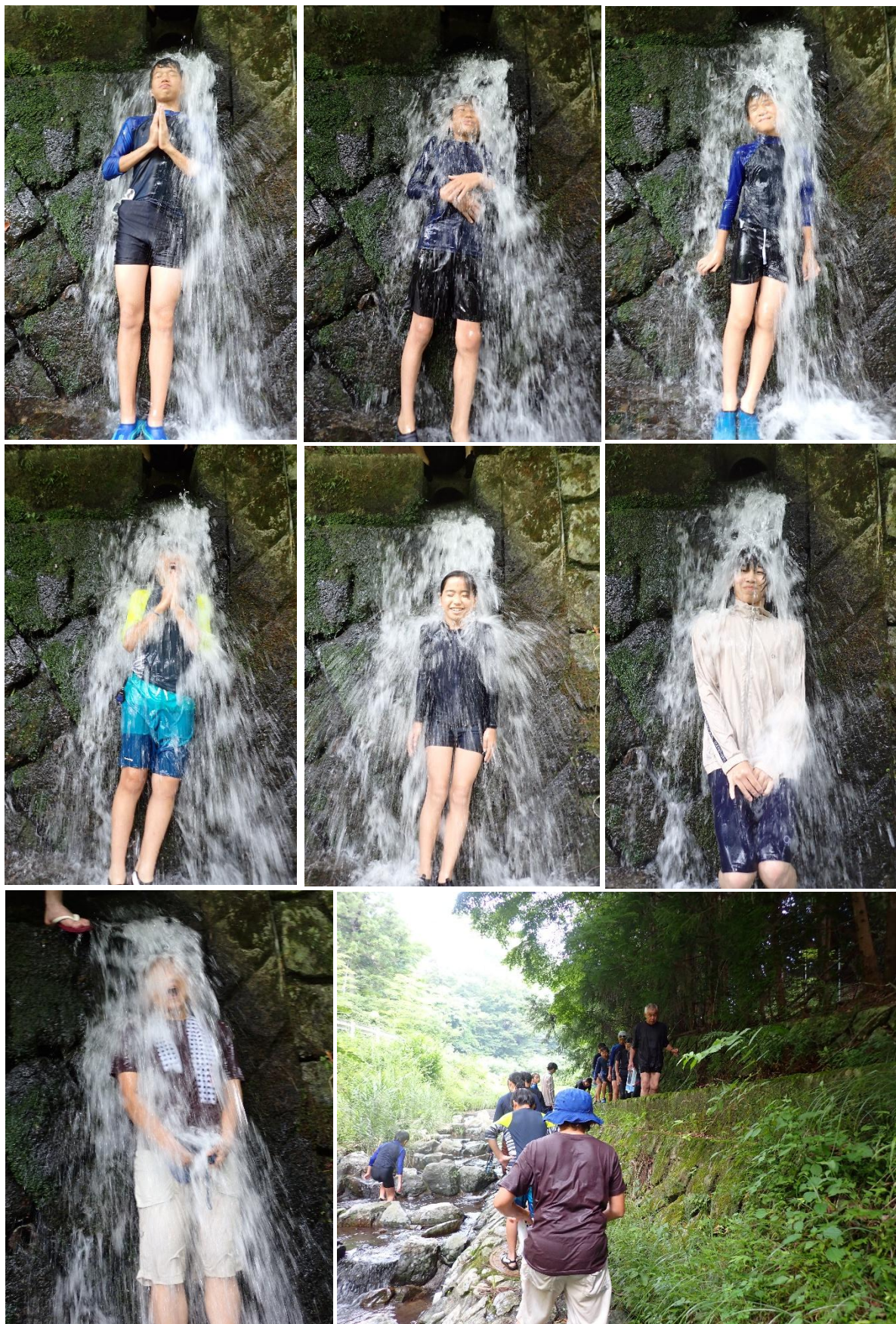


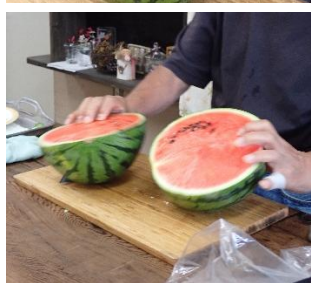












2026年 8月8日(土)
水あそび 夏休み教会学校





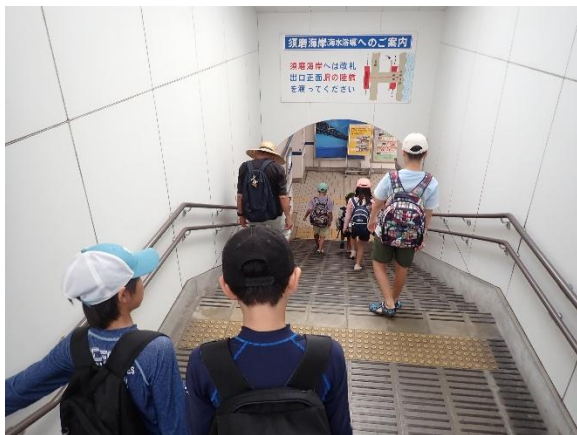




スイカの種飛ばし！誰が一番、とおい？

2026年 8月21日(金)

須磨であそぼう















ああ わたしは いま、とっても うれしいの。
とびきり うれしいの。

8月23日(日)の西宮公会教会の礼拝で、マリー・ホール・エッツの「わたしとあそんで」(訳:与田準一/福音館書店、1968年)を紹介しました。

「わたしは はらっぱへ あそびに いきました。」行った「わたし」は、あそびたいと思った動物たち、みんなに逃げられてしまいます。

「だあれも だあれも あそんでくれないので、わたしは ちちくさをとって、たねを ぷっと ふきとばしました。」

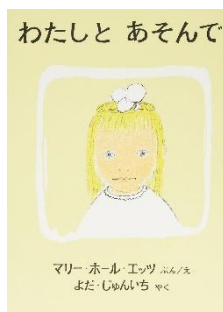
「わたしが おとを たてずに こしかけていると、…」

動物たちが戻ってきます。「いきを とめていると、しかの あかちゃんは、わたしが さわれるくらい ちかくに よってきました。」そして 「それでも うごかずに だまっていると、しかの あかちゃんは もっと ちかよってきて、わたしの ほっぺたを なめました。」そのときの「わたし」。

「ああ わたしは いま、 とっても うれしいの。」

「とびきり うれしいの。」

「わたしとあそんで」のこの「とびきり うれしいの」の「うれしい」幸福は、もちろん「しかの あかちゃんは もっと ちかよってきて、わたしの ほっぺたを なめました。」が実現



していることに尽きます。

ただ、そんな出会いが実現しているのは、実現するためには、わたしがそこにいること。しかも、何ものにも左右されず、拘束されることなく、「そこにいること」です。

もし、子どもたちに「自由」というものがあるとすれば、その自由は、「自分の時間、自分の場所、自分の世界」が保障されていることです。

教会学校の夏休みの子どもたちの時間、子どもたちの場所、子どもたちの世界を少しだけ、報告させていただきます。

何よりの願いは、そこでは、子どもたちの自由が実現されていることです。



